

進路だより【第1号】

発行日：令和7年6月20日（金）

発行者：虹の原特別支援学校壱岐分校
進路指導部

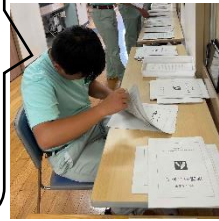
【進路のしおりを高等部サービス班が製本】

5月中旬に＜令和7年度版 進路のしおり＞を配付しました。小中高のそれぞれの段階に合わせて、卒業後の進路について考えるときの参考本にさせていただきたく思います。また、今年度のしおりは、高等部で新しく立ち上がったサービス班の生徒たちが、作業学習の一環で製本作業をしました。ホチキスで留める前にページを飛ばしていないか、複数のページが挟まっていないかなど確認し、役割分担しながら力を合わせて110部の製本作業を頑張りました。次年度の進路のしおりがお手元に届くまで、保管をお願いします。

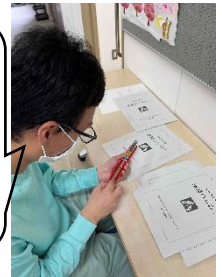
薄い紙で取りにくかったけど、枚数を間違えないよう気を付けて取りました。



綴じる前に、ページが飛んでいないか、重複したページはないか、1枚ずつ確認しました。



ホチキスの芯を入れ替えました。初めてのことで少し手惑いました。



【令和7年度 高等部就労体験実習に係る日程】

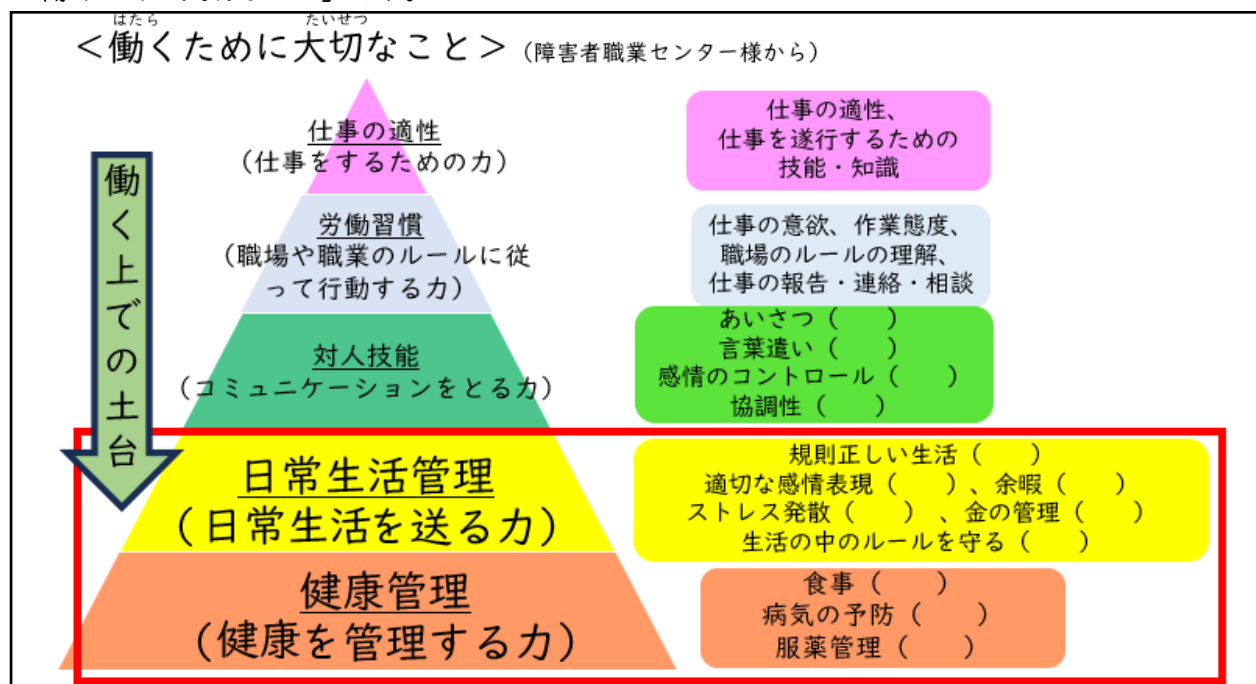
今年度の高等部の年間スケジュールです。卒業後の進路決定に大きく関わる大切な学習です。小中学部の保護者様も参考までにご覧ください。

期日	内容	保護者の動き
4月26日（土）	就労体験実習保護者説明会	ご参加いただき、ありがとうございました。
5月26日（月）～ 5月30日（金）	実習事前挨拶週間 （左記のいずれか1日）	放課後の時間帯に30分から1時間程度、 <u>保護者様も一緒に行います。</u> ※1
6月2日（月）～ 6月13日（金） （3年生は6月20日まで）	第1回就労体験実習 ※1年生は校内実習	・実習期間中は <u>週1回、見学</u> ・2年生は <u>6月12日、または13日</u> 、のどちらか、3年生は <u>6月19日、または20日</u> のどちらか、（時間帯は午前または午後に1時間程度） <u>見学及び評価</u> を行います。ご都合をつけていただきますよう、お願いします。
6月26日（木）	実習報告会	高等部のみならず、 <u>小中学部の保護者様も</u> ふるってご参観ください。
10月27日（月）～ 11月6日（木）	実習事前挨拶週間 （左記のいずれか1日）	※1同様。
11月10日（月）～ 11月21日（金） （3年生は11月28日まで）	第2回就労体験実習	・実習期間中は <u>週1回、見学</u> ・1、2年生は <u>11月20日、または21日</u> 、のどちらか、3年生は <u>11月27日、または28日</u> のどちらか、（時間帯は午前または午後に1時間程度） <u>見学及び評価</u> を行います。ご都合をつけていただきますよう、お願いします。
12月2日（火）	実習報告会	<u>小中学部の保護者様も</u> ふるってご参観ください。

過日、上記6月26日の「実習報告会」の案内プリントを配付しました。一部分のみのご参観も可能です。高等部の生徒たちが施設でどのような実習をしているのか、就労を目指した企業でどのような仕事をしているのか、課題は何で、今後どう向き合っていくかの発表です。小中学部段階から、卒業後の進路先を「知る」→子どもに合った進路先を「考える」→「見据える」というステップを踏みやすくなります。ご参観をお待ちしています。

【就労体験実習の事前学習を行いました】

5月22日に、6月の実習に向け、実習の目標や心構え等について学習しました。この中で、昨年10月に行われた就労支援セミナーで学習した内容を再確認しました。その中の資料の一つが下記の「働くために大切なこと」です。



昨年10月の「進路だより 第2号」でも少し載せていたので、見覚えのある方もいらっしゃるかと思います。この「大切なこと」は、長方形の形ではなく、ピラミッド型であることに意味があり、下にいくほど大切とのこと。この土台の部分は、施設入所等を考えておられる方にも当てはまる内容です。上記のように、下から三つの項目の()に、生徒たちに「◎、○、△」を自己評価で付けてもらいました。それを見た担任の先生方から、「そこは◎なの？」とつっこまれる場面も見られました。自分の評価と他者の評価の違いを受け止め、改善につなげてほしいです。

【手伝いのすすめ】

4月26日に行われた就労体験実習保護者説明会でも説明しましたが、これまで、いくつもの実習先の企業から、「(実習を希望する生徒は)家でお手伝いをよくしている方ですか」と尋ねられました。例えば、「包丁でたくあんを切れるか」「玉ねぎの皮、ゆで卵の殻をむけるか」「カッターやはさみが安全に使えるか」「ひもで蝶結びができるか」「皿を落とさず下げられるか」「決められた皿の並びで配膳できるか」「掃除ができるか(モップ、掃除機、雑巾が使えるか)」「洗濯物をたためるか」などです。また、「普段からちょっとした手伝いをしていれば、仕事はその延長です。客が家に来るとなれば、玄関や部屋の掃除をする、材料を買い、料理を作る、下げた皿を洗う、布団の準備やシーツを掛ける。ホテルの仕事はその延長なのです。家で手伝いをしていれば、難しいことはありません」と言われたホテルの社長もおられました。

様々な企業の方から手伝いのことを問われ、私が思い出したことが二つあります。一つは十数年前、学校で大掃除をしていた時、先輩教師に「子供に家で手伝いさせているか」と聞かれました。その方は、自分の子供が小さいとき、「手伝う」と言っていたけど、小さいうちは大人のやり直しなどで時間も手間も掛かるから、大きくなってできるようになってからさせようと思っていたら、大きくなるともうしない、したいと言っているうちに手伝いの癖をつけ、上手に褒めてさせるといい、というお話をしてくれ、自分の子育てで大変参考になりました。もう一つは長崎総合科学大学教授時代の広木克行さんの講演で、「小学生のころ、ご飯を炊くのが自分の係で、母親から『克行の炊いたご飯は美味しかー』と毎日言ってくれるのが嬉しくて、喜んで炊いていた」というお話です。洗濯物を出す、食器を運ぶなど、できることから、まずは一緒に取り組んでみてください。朝起きたら親より先に「おはよう」と自分から挨拶をする、といったことでもいいと思います。できたら嬉しいと褒め、続けさせてください。家庭での役割を果たすことが、将来、職場や施設などの社会での役割を果たせることにつながります。「家族の中の自分の役割」をしっかり果たせる子供に、家庭と学校で育てましょう。